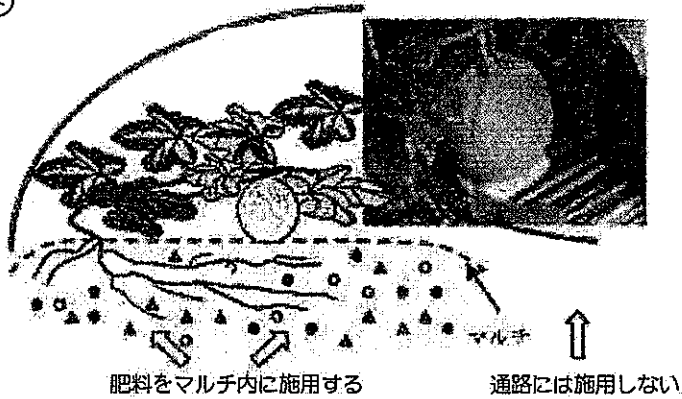


### C.農業地域（畑）における面源対策効果

対策番号	C-1 マルチ内への施肥技術		
区域	農業地域	削減対象とする負荷	畑の排出負荷
出典または基となるデータ	①：農耕地からの窒素等の流出を低減する ～農業環境収支適正化確立事業の成果から～ 平成14年3月 日本農業研究所		
<p>【具体的対策】</p> <p>マルチ栽培を行う作物の場合に、表土を覆うマルチ内に肥料を施用し、降雨による肥料の流亡を防止する。</p> <p>メロン</p>  <p>図 マルチ内への肥料施用</p>			
<p>【汚濁負荷量削減効果】</p> <p>文献における調査事例より、 T-N：17% と設定した。 COD、T-Pについては調査事例がなく、効果を見込むことが困難であった。</p>			
<p>【対策効果を排出負荷量原単位に反映する方法】</p> <p>対策後源単位＝畑原単位×（1-削減率）</p>			
<p>【汚濁負荷量削減効果の根拠】</p> <p>メロンのトンネル栽培において、肥料を降雨の影響を受けないマルチ内へ施用し、肥料の流亡を防ぐことによって、肥効率を高めることができる。 メロンーだいこん作付け体系においては、対象圃場とくらべ、窒素の溶脱量を17%削減された事例を引用し、T-N削減率を17%と設定した。</p>			

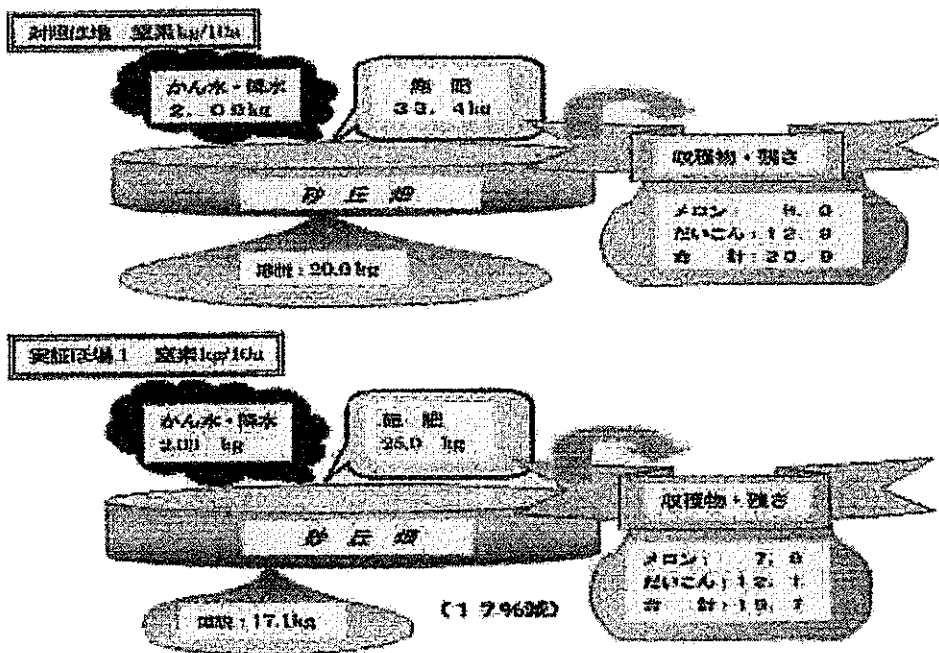


図 メロン・ダイコン作付たい系における窒素溶脱量の削減効果

対策番号	C-2 イネ科作物を取り入れた適切な輪作体系の維持と被覆肥料の条施用		
区域	農業地域	削減対象とする負荷	畑の排出負荷
出典または基となるデータ	①：農耕地からの窒素等の流出を低減する ～農業環境収支適正化確立事業の成果から～ 平成14年3月 日本農業研究所		
<p><b>【具体的対策】</b></p> <p>はくさい、だいこん等の露地野菜にイネ科作物を組み入れた輪作体系の基で、牛ふん堆肥の適正施用と被覆肥料の条施用によって、肥効率を高め、環境への負荷を削減する。</p>			
<p>図 イネ科作物を組み入れた輪作体系</p>			
<p><b>【汚濁負荷量削減効果】</b></p> <p>文献における調査事例より、  T-N：14%  と設定した。  COD、T-P については調査事例がなく、効果を見込むことが困難であった。</p>			
<p><b>【対策効果を排出負荷量原単位に反映する方法】</b></p> <p>対策後源単位＝畑原単位× (1-削減率)</p>			
<p><b>【汚濁負荷量削減効果の根拠】</b></p> <p>イネ科作物を組み入れた輪作体系とすることで、農地における窒素収支は改善され、対象圃場とくらべ、窒素の溶脱量を17%削減された事例を引用し、T-N削減率を17%と設定した。</p>			

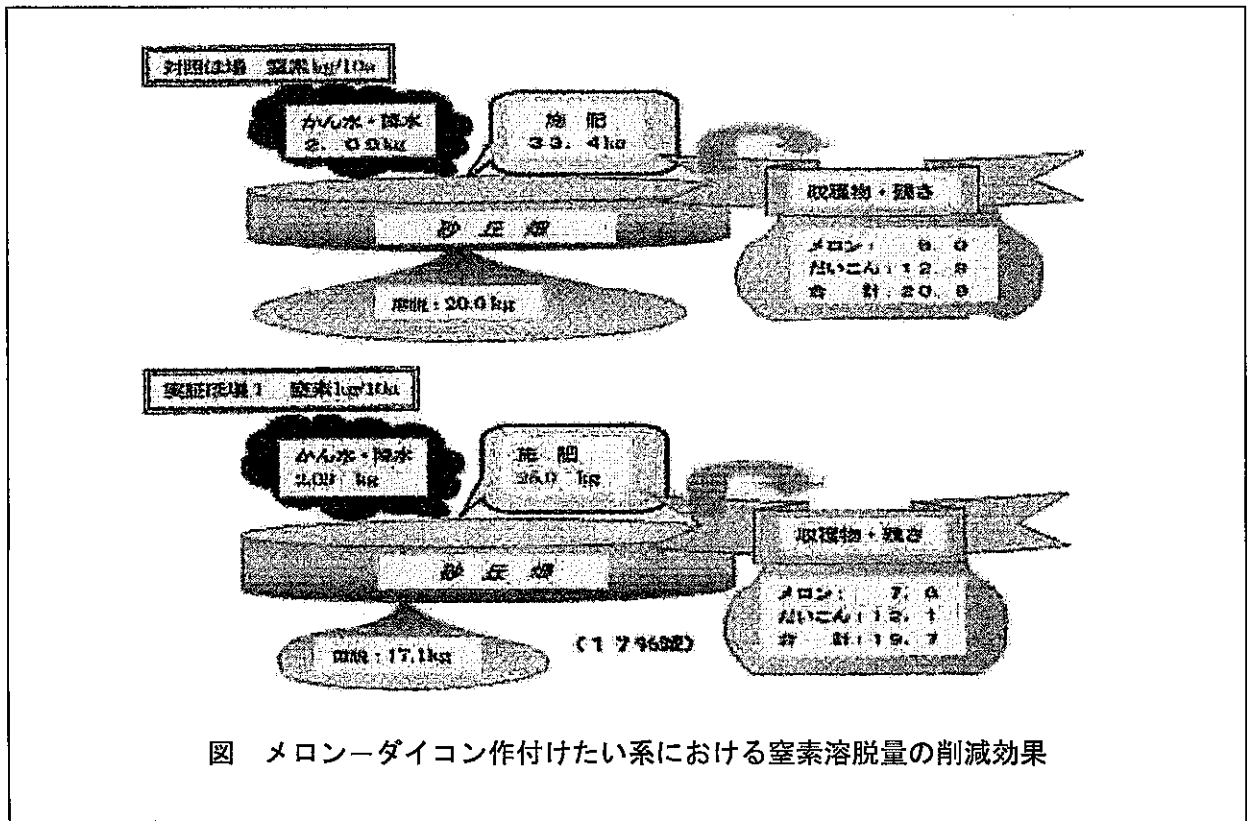


図 メロン・ダイコン作付たい系における窒素溶脱量の削減効果

対策番号	C-3 クリーニングクロップの導入		
区域	農業地域	削減対象とする負荷	畑の排出負荷
出典または基となるデータ	①：農耕地からの窒素等の流出を低減する ～農業環境収支適正化確立事業の成果から～ 平成14年3月 日本農業研究所		

【具体的対策】

にんじんのトンネル栽培後に、ソルガムを無施肥で栽培し、にんじん栽培後の残存窒素が溶脱するのを防止する。ソルガムは、刈り取り後、農地にすき込み有機態窒素の供給源として利用し、化学肥料を減らしても収量、品質は維持できる。

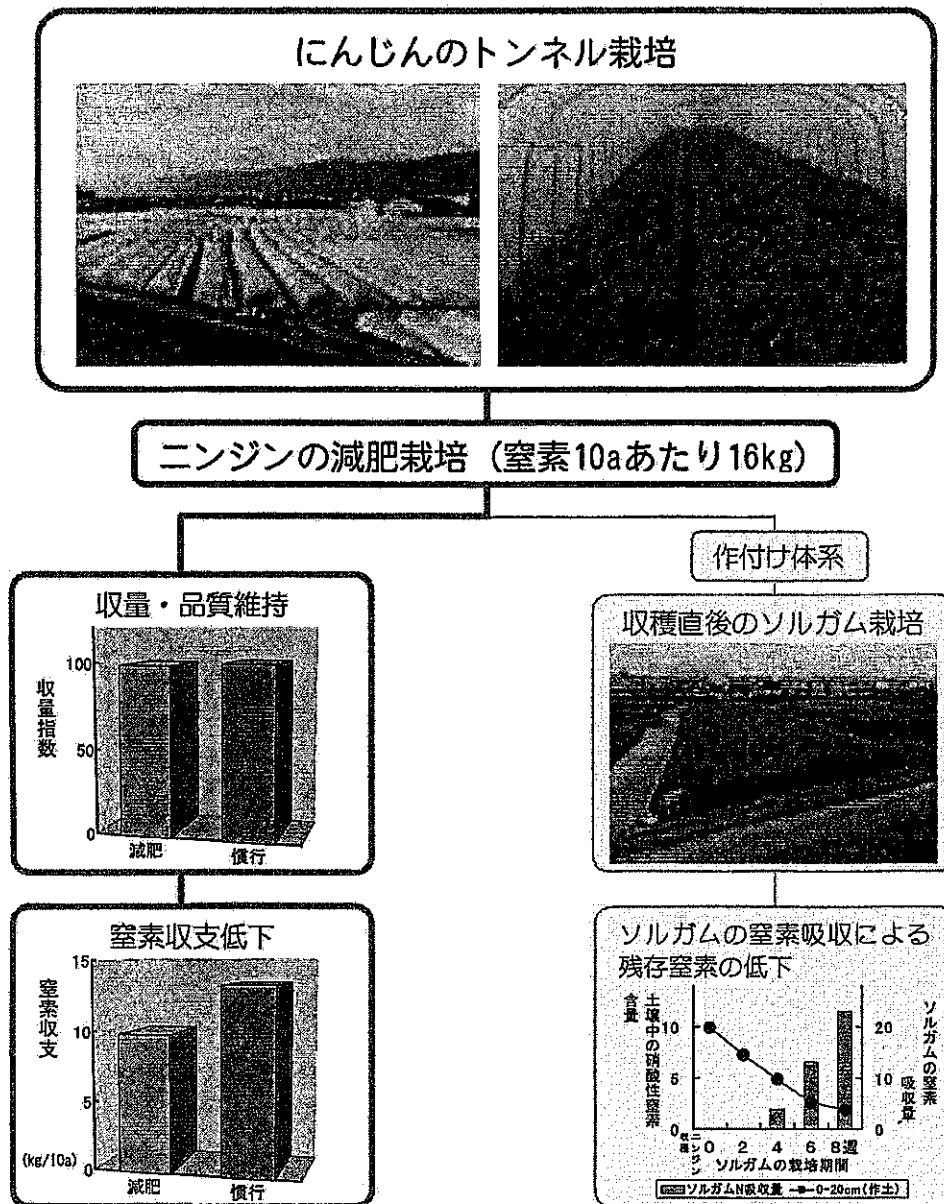


図 にんじん栽培後のソルガムによる残存窒素の吸収

**【汚濁負荷量削減効果】**

文献における調査事例より、

T-N：23%

と設定した。

COD、T-P については調査事例がなく、効果を見込むことが困難であった。

**【対策効果を排出負荷量原単位に反映する方法】**

対策後源単位 = 畑原単位 × (1 - 削減率)

**【汚濁負荷量削減効果の根拠】**

文献によると、にんじん - ソルガム体系では、窒素溶脱量は施肥量削減に伴って減少し、1年目で23%、2年目で60%、3年目で70%程度減少する。

ここでは、1年目の効果である23%を、削減効果として設定した。